

学校名	愛知県立一宮東特別支援学校
-----	---------------

活動のテーマ	地域防災ネットワークプロジェクト～避難所体験をしよう～
主な教科領域等	教科領域（ 職業・家庭 ）
活動に参加した児童生徒数	体験型授業（高等部3年46人）、避難所見学コーナー（全校児童生徒約300人）
活動に携わった教員数	体験型授業15人、避難所見学コーナー 約70人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	4人（保護者3人、地域住民・その他（一宮市井端地区民生委員1人）） ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に丸をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	西暦2021年1月8日（金）～西暦2021年1月29日（金）
想定した災害	※該当するものに丸をつけてください。複数可。 地震 津波 台風 洪水・河川氾濫・土砂・その他（ ）

活動報告

1) 活動の目的・ねらい

- ・ 防災活動を通じた交流を進め、学校、PTA、地域の地域防災ネットワークづくりをする。
- ・ 避難所見学コーナーを設置し、模擬避難所や非常食の見学を通して、全校児童生徒の減災への意識を高める。
- ・ 家庭の備蓄に関するアンケートを行い、保護者の意識向上を図り、家庭での備蓄の大切さを啓発する。

2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

	実践内容
2020.9	・ 職員打ち合わせ会議にて本プログラム助成校決定連絡
2020.10	・ 市役所訪問、協力依頼 ・ NPO 法人レスキューストックヤードへの本プログラムアドバイザー依頼 ・ PTA 会長との打ち合わせ、本部役員参加の依頼
2020.11	・ 生徒指導部打ち合わせ会議にて「避難所見学コーナー」詳細案提案 ・ 職員打ち合わせ会議にて「避難所見学コーナー」詳細案提案
2020.12	・ 管理職打ち合わせ会議にて体験型授業「避難所体験をしよう」計画案提案、新型コロナウイルス感染症対策確認 ・ 体験型授業計画案について、レスキューストックヤード、PTA 会長との打合せ ・ 一宮市役所へ防災用品等借用申請 ・ 全校保護者対象「家庭の備蓄状況に関するアンケート」調査実施、集計 ・ 一宮市障害者自立支援協議会での講演「発達障害の理解と支援～障害児とかかわる人の災害への備え～」の YouTube を使用した期間限定配信を避難所見学コーナーでお知らせ、地域支援部と連携。
2021.1	・ 一宮市役所にて防災用品等借用 ・ 「避難所見学コーナー」設置、保護者アンケート結果の掲示 ・ 一宮市障害者自立支援協議会での講演「発達障害の理解と支援～障害児とかかわる人の災害への備え～」の YouTube を使用した期間限定配

信のちらし配布（地域支援部）

- ・ 一宮市井端地区民生委員及び本校学校評議員へ、体験型授業「避難所体験をしよう」への参加依頼
- ・ 学年打ち合わせ会にて体験型授業「避難所体験をしよう」計画案提案
- ・ 体験型授業「避難所体験をしよう」実施

3) 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。
昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

① 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと

- ・ 本プログラムの連携のため、積極的に外部へ働き掛けた。一宮市役所危機管理課を訪問、避難所見学コーナーで使用する掲示用ハザードマップの提供、避難所設営用パーテーション等の借用という形で連携できた。PTA 本部役員の方々とは、防災体験授業への参加協力、保護者への減災に関する啓発活動についての相談等、こまめに連絡を取り合い、連携できた。1月の緊急事態宣言発表を受け PTA 主催の避難所体験が中止になったが、来年度も連携し合い、保護者への啓発活動を行っていくことを確認した。

② 研修会を受けての自校の活動の変更・改善点

- ・ 学校全体と関連させた活動とするために、「避難所見学コーナー」を本校体育館ステージに 15 日間設置し、全校児童生徒が見学できるようにし、減災への意識を高める活動を追加した。
- ・ 一宮市役所危機管理課に本校の考える地域との連携について伝えたところ、県立学校である本校は、災害が起きたときに地域の避難場所の拠点として機能することは不可能であること、障害者への配慮などはほとんど想定されていないため、市民の非常食や毛布等も人数分の備蓄はされていないため、市民の自助や県や国の支援に期待している部分が大きいことが分かった。つまり、自助力の向上が必要であると実感し、児童生徒の減災意識を高めるだけでなく、保護者への啓発も必要不可欠であると痛感した。よって「家庭の備蓄に関するアンケート」を行うこととし、集計結果を見学コーナーに掲示した。

③ 昨年度までの実践と今年度の実践で変わった点

- ・ 減災教育プログラムに採択されたプランということで、生徒指導部を中心として、学年や学校全体で取り組むことができ、多くの協力が得られ、実践の対象を全校児童生徒に広げられた点。
- ・ 他の校務分掌とも連携ができた点。地域支援部からの情報提供があり、一宮市障害者自立支援協議会主催、愛知県立大学看護学部准教授 柴 邦代氏による講演会「発達障害の理解と支援～障害児とかかわる人の災害への備え～」の Youtube を使用した期間限定配信のちらしを避難所見学コーナーに置き、保護者への啓発を行えたこと。

④ 助成金の活用で可能になったこと

- ・ 本プログラムのアドバイザーとして、NPO 法人レスキューストックヤードとの連携ができたこと。早くから被災地に入って活動されている経験に基づいたアドバイスは、非常に参考になり、勉強になった。
- ・ 避難所見学コーナーでは、より実際に近い形で避難所を再現することができたり、アウトドア用品を活用した備えについての提案ができたり、学校で備蓄している非常食に加え、様々な非常食を掲示したりできたこと。
- ・ 購入したテント等を使用した体験型授業が可能になり、NPO、地域の方、保護者の方と一緒に授業実践ができたこと。

4) 実践の成果

① 減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

- ・ 一日のみの体験ではなく、学校全体で取り組める活動となるように改善したことで、全校児童生徒を対象に実践することができたこと、全校を対象としたことで、PTA との連携をより深めることができたこと。
- ・ 積極的に外部へ働き掛けたことで、NPO、行政との連携が新たにできて、地域との連携も継続できた。行政の話から、当初考えていた連携が難しいことが分かり、本校の児童生徒とその保護者にとって、どのような減災教育活動が必要か、学校全体で考えることができた。
- ・ 生徒指導部中心に実践の展開を行ってきたが、「避難所見学コーナー」を設置したことで、校務分掌を超えて地域支援部とも連携することができた。

② 児童生徒にとって具体的にどのような学び(変容)があり、どのような力(資質・能力・態度)を身につけたか。

- ・ レスキューストックヤード浦野様の講演の場面では、東日本大震災の実際の映像を見て、机の下に避難することや「大丈夫だよ」と声を掛け合うことの大切さを知ると、話を聞きながらうなずいたり、顔を見合わせたりしていた。想像することが難しい生徒たちであるが、考えながら話を聞いているのがよく分かった。体験の場面では、体育館で横になる、足音を聞く、アルミシートで暖を取る、模擬避難所で寝てみる、少ない水で手をきれいにする、非常用トイレに座るといったような体験を通して、何かを教えてもらうのではなく、自分で感じよう、考えよう、自ら進んで取り組もうとする主体的な態度が見られた。振り返りの場面では、ここで一晩明かすのは嫌だと感じたこと、何があれば自分は安心できるか考えたこと、協力したり声を掛け合ったりすることが大切ということなどを自ら感じ、学び取ったことを積極的に発表できた。
- ・ 「避難所見学コーナー」を見学したり、授業で活用したりする中で、避難所とはどのようなところかを知るだけでなく、防災頭巾のかぶり方や災害時の避難の仕方も合わせて確認できた学級もあった。小学部、中学部の児童生徒たちも、自分の命を自分で守ろうとする意欲的な態度が見られた。

③ 教師や保護者、地域、関係機関等(児童生徒以外)の視点から

- ・ 体験型授業や見学コーナーでの実践を一緒に行うことで、生徒達の反応を間近に見ることができ、体験を共有できることそのものが貴重な機会となったこと。災害が起きたとき、児童生徒は、地域の方々と避難したり、避難所で過ごしたりすることとなる。今回は、新型コロナウイルス感染症予防のため、地域の方も保護者も限られた方しか参加していただくことができなかったが、授業の中で災害が起きるといふ非日常なことを体験することそのものの重要性を実感した。

5) 工夫した点、実践の特徴・特筆すべき点

- ・ 「避難所見学コーナー」では、展示物に手書きのポップをつけ、児童生徒の興味を引き出したこと。アンケートの集計結果の掲示や地域支援部と連携したちらしの設置など、保護者へ向けて、災害時だけでなく、災害時に備えた平素からの準備を啓発できるような情報を提供したこと。
- ・ 体験型授業「避難所体験をしよう」では、一宮市から借用した防災用品で作った「一宮市コーナー」と家にありそうなテント等アウトドア用品で作った「テント型コーナー」の2種類用意し、プライバシーの確保や安心感、防寒など快適さなどを比較できるようにしたこと。

6) 実践から得られた教訓や課題と次年度以降の実践の改善に向けた方策や展望

- ・ 今年は新型コロナウイルス感染症予防策を取る必要があり、見学の仕方や防災授業の実施方法、参加者等、制限しながら取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの生活を変えるだけでなく、

災害への備えや防災訓練、減災教育の在り方まで変えようとしている。今後は、新たな視点で取り組む必要がある。今年度、新型コロナウイルス感染症予防のため、職業・家庭や生活単元学習の授業において調理実習が全くできなかった。来年度も同じ状況が続くのであれば、調理実習の代わりに減災教育を取り入れ、今年度実施した体験型授業を中心に年間指導計画に位置付けたいと考える。

7) その他 (※特にあれば記述)

- 本校の児童生徒は、災害弱者である。日常のほんの少しのイレギュラーで情緒不安定になることもある児童生徒にとって、災害という巨大なイレギュラーによる不安の大きさは計り知れない。さらに、ここ何十年もこの地域には、大きな災害が起きていない。目の前に起きていない災害を想像し、児童生徒の生き抜く力を育てる、それが我々の使命だと考える。本プログラムの実践は、その小さな第一歩である。この学びを次につなげ、災害弱者である児童生徒がただ守られるだけの存在ではなく、学校や地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献しようとする気持ち、仲間や地域の力となる担い手として役割を果たそうとする気持ちを育てていきたい。

※写真や画像、補足資料などがある場合は添付してください。写真は別途元データ (JPEG) もご提供ください。

減災教育プログラム	日時	場所	対象学年	アドバイザー	協力者
「避難所を体験しよう」	令和3年1月19日(火) 5, 6限 職業・家庭 13:10 開始	体育館	高等部3年 (A,B1 類型)	NPO 法人レスキューストックヤード 常務理事 浦野 愛	一宮市井畑地区民生委員 本校学校評議員 齋津 謙 PTA 本部役員 3名

学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 避難所がどのような場所であるかを知る。 避難所で過ごすことを想定して、どのような備えがあるとよいか考える。 断水したときや消毒液が不足したときに、少ない水で身体の衛生を守る方法を知り、体験する。
SDGsの視点で育む能力・態度	自ら進んで参加する態度

活動の展開 生徒服装：運動服 持ち物：アルミシート (職業・家庭の各グループで準備したもの)

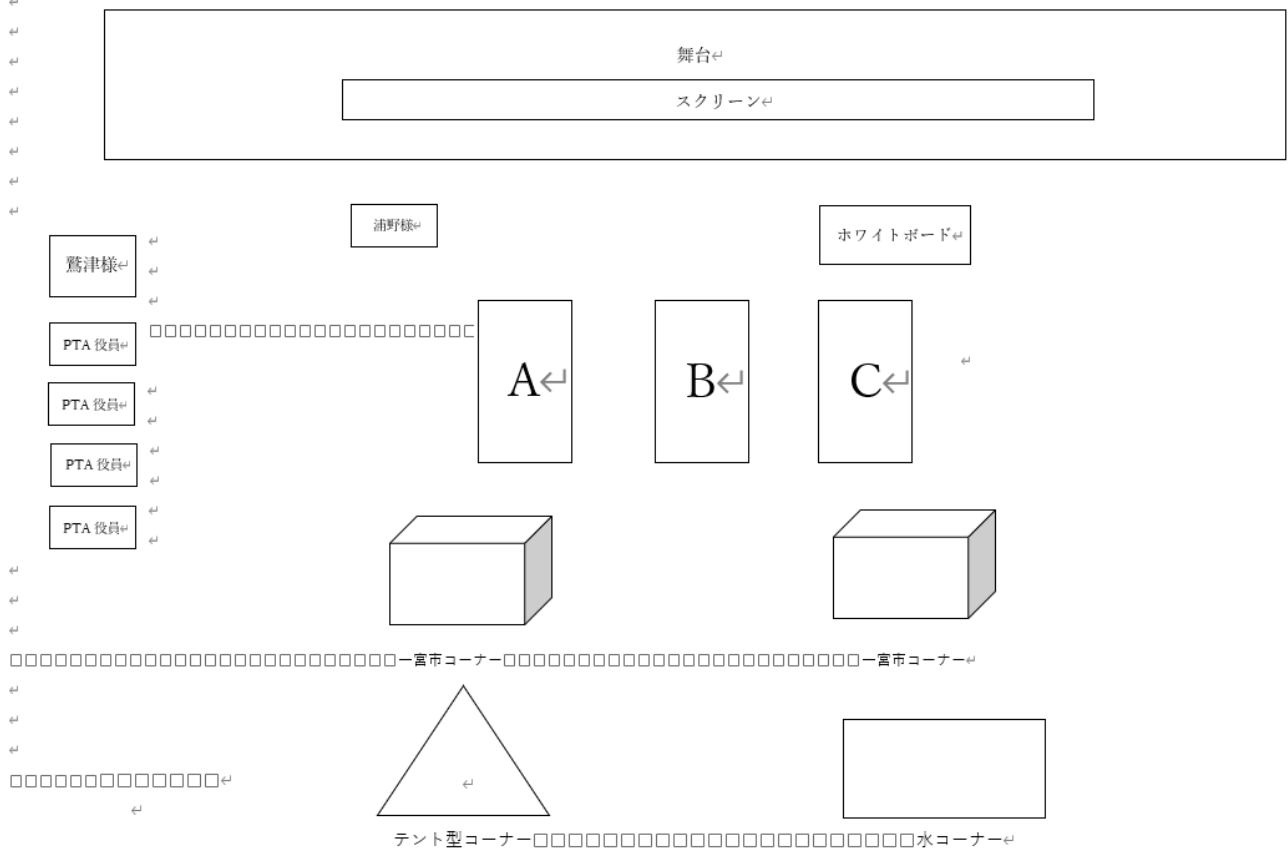
活動内容	生徒の動き	教師の動き、支援	アドバイザーの動き	PTA 役員・地域の方の動き
準備	<ul style="list-style-type: none"> 給食を早く食べ終わった自力通学生は会場準備を行うため体育館へ移動。 その他の生徒について A、B、Cグループ→1:10 までに体育館へグループごとに移動 Dグループ→3、4組 Eグループ→1、2組 *コロナ対策のため会場を分けて重施に変更 職業・家庭のグループごとに整列 (体育館) 	<ul style="list-style-type: none"> アドバイザー迎え、校長、PTA 役員、民生委員へ紹介、体育館へ誘導、会場確認 (岡田) 会場準備 (避難所セッティング、イス、ホワイトボード) (田中・早川) プロジェクター、スクリーン、マイク準備 (長尾・奥山) アドバイザー P C セッティング補助 (奥山) D、Eグループは、1、2組に一宮市コーナー、3,4組にテント型コーナーを設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校長、PTA 役員、地域の方へ挨拶 会場確認、P C セッティング マイク確認 	<ul style="list-style-type: none"> アドバイザー、民生委員へ挨拶 避難所セッティング 会場確認
1 挨拶・流れの説明 (10分)	挨拶、流れの説明を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 司会進行：岡田 はじめの挨拶 アドバイザー、PTA 役員、民生委員の紹介 本日の流れの説明 	<ul style="list-style-type: none"> 舞台前へ着席 あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> 指定席へ着席 あいさつ (齋津 謙、PTA 会長)

<p>2□「避難所」とは □ (15分) ㊦</p>	<p>・避難所で生活している様子の写真を見ながら話を聞く。(グループごとに掌握) ㊦ *講話は録画し、D、Eグループが後日視聴できるようにする。 ㊦ <体験の内容> ㊦ ・「一富市コーナー」、「テント型コーナー」「水コーナー」を順番に1グループごとに体験する。 ㊦ ・最初に体験するグループ ㊦ Aグループ—一富市コーナー ㊦ Bグループ—テント型コーナー ㊦ Cグループ—水コーナー ㊦ ・各コーナー1グループずつ順番に体験し、終わったら待機しているグループを呼んで交代する。 ㊦</p>	<p>・グループごとに掌握 ㊦ ・生徒の間隔が1mごとになるように気を付ける。 ㊦ <体験時の担当> ㊦ ・一富市コーナー (浦野様、鷲津様) ㊦ ・テント型コーナー (⑤田中、⑥松田) ㊦ ・水コーナー (PTA 役員) ㊦ ・体験についての確認 (岡田) ㊦ ・一富市から借用したものを使用して作った「一富市コーナー」と、テントや家にあるアウトドアグッズを使用して快適に過ごせるように工夫した「テント型コーナー」の両方を体験することを伝える。 ㊦ ・グループチーフの指示で移動、体験が終わったら次のグループを呼ぶ。 ㊦</p>	<p><講話の内容> ㊦ ・実際の避難所の様子について ㊦ ・体験時は、一富市コーナーを担当。 ㊦</p>	<p>・体験時は、「水コーナー」を担当。 ㊦</p>
<p>3□体験 ㊦ □ (30分) ㊦</p>	<p>・模擬避難所コーナーでグループごとに、自分のアルミシートを使用し、パーティションの中に座ったり寝転んだりしてみる。 ㊦ ・寒と対策の新聞紙布団づくりや足を入れる体験は浦野様の指示で随時行う。 ㊦ ・水コーナーで、少ない水で手を清潔にする体験をする。 ㊦ ・寝心地、プライバシーの確保、防寒、自分で準備しておくよもの等、体験を通して考えたり、友達のことを聞いたりする。 ㊦ ・D、Eグループは、グループごとで教室に設置された両方のコーナーを交互に体験する。 ㊦</p>	<p>・体験時、並んでいるときに、密にならないように気を付ける。 ㊦ ・記録写真は、各グループで撮る。 ㊦ <言葉掛けポイント> ㊦ ・布団がない状態で、固い床に寝なくてはならないことをイメージして、寝心地はどうか、自分は寝られるかどうか。 ㊦ ・アルミシートは布団代わりになりそうか。 ㊦ ・一富市コーナーとテント型コーナーを比較して、自分たちで用意するよものは何か、または家にあるもので使えそうなものや工夫して使えるものはあるか。 ㊦ ・プライバシーの確保はどうか。 ㊦ ・停電時の避難所には暖房がないため、防寒対策に</p>	<p>・一富市コーナーへ移動。 ㊦ ・一富市コーナーで、グループごとに体験を行う。寒と対策の新聞紙布団づくりや足を入れる体験など、グループの美観に合わせて行う。 ㊦ A、Bグループ—新聞紙布団づくりが可能 ㊦ Cグループ—足を入れる体験のみ ㊦</p>	<p>・水コーナーへ移動。 ㊦ ・各グループペットボトル1本の水をティッシュに含ませ手をふく体験を行う。 ㊦ ・災害時、断水や消毒が不足する中、少ない水で手や体を清潔にすることが必要になることを、体験を通して知らせる。 ㊦</p>

	<p>・水の体験は、時間があれば行う。 ㊦</p>	<p>必要な物は何か。 ㊦</p>		
<p>4□振り返り ㊦ □ (20分) ㊦</p>	<p>・グループごとに整列 ㊦ ・感想を発表したり、友達の感想を聞いたりする。 ㊦ *D、Eグループは、各教室で振り返りを行う。 ㊦</p>	<p>・グループごとに掌握 ㊦ ・多くの生徒が発表できるように促す。(各グループ) ㊦ ・振り返りの中で、一富市には人数分の毛布やパーティションは用意されていないことや備蓄食料がないことを伝える。 ㊦</p>	<p>・振り返りのまとめの話 ㊦</p>	<p>・指定席へ着席 ㊦</p>
<p>5□挨拶 ㊦ □ (5分) ㊦</p>	<p>・お礼の挨拶 (山本) ㊦ ・挨拶 ㊦ ・グループごとに教室へ移動 ㊦</p>	<p>・グループごとに教室へ移動、掌握。 ㊦ ・校長室へ講師、PTA 役員、民生委員の方の誘導 ㊦</p>	<p>・校長室へ移動 ㊦</p>	<p>・校長室へ移動 ㊦</p>
<p>片付け ㊦ □ (生徒下校後) ㊦</p>		<p>・会場片付け (避難所コーナー、イス) (生徒指導部) ㊦ ・プロジェクター、マイク ㊦</p>		

<新型コロナウイルス感染症対策> ㊦

- ・□マスクを着用し、体育館の扉は全て開けて、十分に換気を行う。 ㊦
- ・□体験の際は、各自持参したアルミシートを使用し、体験コーナーでは密にならないように間隔を空ける。 ㊦
- ・□全体集合するとき、講話を聴くときは、避難所体験コーナーを後方に下げて、間隔を1m開けて座るようにする。 ㊦
- ・□体験するときは、密にならないように、一富市コーナー、テント型コーナー、水コーナー各1グループごとに交代で行う。 ㊦
- ・□体育館での密を避けるため、A、B、Cグループは体育館、Dグループは1、2組、Eグループは3、4組に会場を分ける。 ㊦



令和2年度「避難所見学コーナー」の設置について

1□ねらい

□「アクサ□ユネスコ協会□防災教育プログラム」の取り組みの一環として、模擬避難所を見学したり、学校で備蓄している非常食を実際に見たりすることで、児童生徒の防災に対する意識を高める。

2□対象

□全校児童生徒

3□日時

□令和3年1月8日(金)～1月29日(金) □15日間

4□場所

□体育館ステージ(常設)



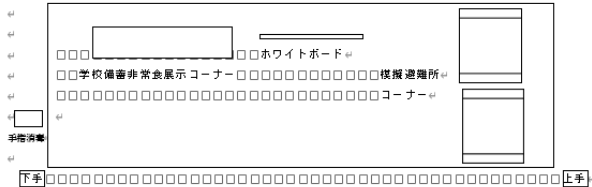
5□内容

□イメージ写真
 □ 模擬避難所コーナー
 □ 学校備蓄非常食展示コーナー
 □ 掲示物コーナー

6□配慮

□

体育館舞台



R2.11.17
 生徒指導部

7□準備

模擬避難所コーナー	・パーティション2、敷きマット2、毛布2、タオル2 <input type="checkbox"/> (防災教育プログラム助成金で購入)
学校備蓄非常食展示コーナー	・アルファ米(3種類)、パン缶、乾パン、缶入りミルクビスケット、水(防災教育プログラム助成金で購入)
掲示物コーナー	・ホワイトボード、一宮市のハザードマップ(一宮市役所提供)、避難所について、アンケート結果の掲示物 ・「家庭の備蓄状況に関するアンケート」用紙、封筒 <input type="checkbox"/> (事前に係から担任に配付、回収)

□ 1月7日(木) 始業式の午後、設置を行う。(予定)

8□新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

- 舞台下手側に手指消毒液を設置する。
- 見学時は、手指消毒を行い、マスクを着用する。
- 見学は下手側を入口とし、上手側を出口とする一方通行とする。
- 密にならないように、間隔をあけて見学する。
- 展示物等には、触れないように気を付ける。

9□その他

- 「家庭の備蓄状況に関するアンケート」用紙は、12月11日に配付、12月18日締め切りで回収を行う。
- 学級の時間などを利用して、自由に見学する。
- 今年度より毎年継続して実施する。(来年度以降は、「防災の日」や「防災週間」に合わせて実施したい。)

保護者様へ

「家庭の備蓄状況に関するアンケート」調査について

寒冷の候、皆様におかれましては、ご健康のことお喜び申し上げます。さて、2020年は、「令和2年7月豪雨」が発生し、九州や中部地方をはじめとする広い範囲で深刻な被害をもたらした。その他にも、6月にマグニチュード6.1の千葉県東方沖を震源とする地震がありました。いつどこで起きるか分からないあらゆる災害に備えて、日頃から備蓄しておくことが重要であると再認識されています。今年度、本校は「アサロユネスコ協会減災教育プログラム」の助成校となり、防災教育により一層力を入れております。ご多忙の中、恐縮ですが、「家庭の備蓄状況に関するアンケート」調査を実施し、活動に生かしたいと考えております。お忙しいところ恐縮ですが、集計の都合上、12月18（金）までに提出してください。ご協力をお願い致します。

家庭の備蓄状況に関するアンケート

*該当する所を○で囲んでください。

①備蓄には災害初期を乗り切るとの最低限の備蓄量「3日分×家族の人数分」が必要とされておりますが、知っていましたか。

はい○・□いいえ○

②御家庭では、「3日分×家族の人数分」の備蓄ができていますか。

十分できている○・□それなりにできている○・□あまりできていない○・□全くできていない○

③自身の居住地域で、近年、大きな災害が発生する可能性があると思いますか。

とても思う○・□少し思う○・□あまり思わない○・□全く思わない○

④近頃の異常な豪雨や地震などの災害対策として、新たに備蓄を追加、もしくは従来より増やしたのがありますか。「ある」と答えた方のみ、追加で備蓄したものを教えてください。

ある○ () □・□ない○

⑤新型コロナウイルスの影響で避難所でのウイルス対策も求められておりますが、新たに追加、もしくは従来より備蓄量を増やしたものはありますか。「ある」と答えた方のみ、追加で備蓄したものを教えてください。

ある○ () □・□ない○

ご協力ありがとうございました。

アサロユネスコ協会減災教育プログラム

防災体験授業。「避難所体験をしよう」

アサロユネスコ協会減災教育プログラムの一環で、高等部3年生の職業科・家庭科の授業で防災体験授業「避難所体験をしよう」を実施しました。NPO法人レスキューストックヤード常務理事の浦野慶博、一宮市井筒地区民生委員であり本校学校評議員の猪津啓博、PTA本部役員の方々と一緒に授業を行いました。コロナ対策で、2会場に分かれて、模擬避難所コーナーに現れたり、アルミシートにくるまったり、少ない水で手をきれいにしたりするなど、積極的に体験することができました。



アサロユネスコ協会減災教育プログラム

。「避難所見学コーナー」

アサロユネスコ協会減災教育プログラムの一環で、「避難所見学コーナー」を設置し、全校児童生徒と保護者が見学できるようにしました。模範避難所コーナー、学校で備蓄しているものも含めた非常食の展示コーナー、保護者の方に御協力いただいた「家庭の備蓄」アンケートの集計結果の掲示コーナーを作り、多くの児童生徒が見学をしました。また、授業で使用したクラスもあり、児童生徒の防災・減災への意識を高めることができました。授業参観のときには、保護者の方々にも見学していただき、ありがとうございました。



1 〇ねらい

- (1) 災害発生時に、児童生徒が安全かつ速やかに避難できるようにする。
- (2) 災害発生時に、適切に対処する防災・安全体制の確立を図る。
- (3) 避難経路および防災に関する講話を通して、防災意識を高める。

2 〇日時及び訓練内容

訓〇練	期〇日	内〇容
第1回防災訓練 (2限) HR対応	4/15(水) 準備4/16(木) 4/22(水) 予備日4/24(金)	〈地震・火災発生時の対応〉 教室での一次避難訓練(全体)、運動場までの避難経路の確認、一次避難の方法の確認(学級別等) ※運動場での二次避難訓練は実施しない。
第2回防災訓練 (3限)	6/4(月) 準備6/9(土) ※2学期以降 検討	〈大震災時の対応〉 教室での一次避難訓練、運動場への二次避難訓練、防災マニュアルの周知。(身を守る、状況に応じた避難をする。)
第3回防災訓練 (2限後~3限)	9/23(水) 予備9/24(木)	〈地震・火災発生時の対応〉 教室での一次避難訓練、運動場への二次避難訓練、消防署員の講話、スモーク体験、消火器の使い方。
第4回防災訓練 (4限) ショート訓練	2/3(水) 予備2/4(木) 学期1回	〈地震・火災発生時の対応:抜き打ち訓練〉 教室での一次避難訓練、運動場への二次避難訓練。 〈安全確保〉 様々な場面(朝の会、放課、給食等)での一時避難訓練。
不審者対応訓練 (2限)	7/16(水) ※2学期以降 検討	〈人的災害時の対応〉 不審者進入時の適切な対応。
下校訓練	7/17(金) ※2学期以降 検討	〈南海トラフ地震発生時の対応〉 下校の準備、手順の確認。
災害伝言ダイヤル活用訓練	1学期中	〈災害伝言ダイヤルの体験〉1日か15日 電話、メールが不通の場合の連絡手段の確認。
消火器・消火栓活用訓練	9/1(火)	〈火災発生時の対応〉 消火器・消火栓の場所、使用方法の確認。
職員防災訓練	5/8(金)	〈大震災時の職員対応〉 防災マニュアルに基づき、大震災を想定した職員の訓練。
職員不審者対応訓練	6/12(金)	〈人的災害時の職員対応〉 不審者が校内に侵入した際の職員の対応訓練。
防災体験授業	1/19(火)	防災体験授業「避難所体験をしよう」。
避難所見学コーナー	1/8(金)~1/29(金)	模擬避難所コーナー等を体育館ステージに設置。

3 〇留意事項

- (1) 一次避難は、身を守る。①安全な場所に移動「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」
②頭(後頭部)や体の保護「机の下等に隠れる。頭(高等部)を守る。」③揺れが収まるまで動かない。
- (2) 一次避難後、空き職員は第一職員室へ集合する。
- (3) 二次避難は、指定された場所(運動場)に避難する。
- (4) 点呼:担任→学年主任→部主事→教頭→校長
(作業等の場合:授業担当者→部主事→担任→学年主任→部主事→教頭→校長)
- (5) 点呼用児童生徒名簿は、原則として部主事が持ち出す。不在の場合は、各教務主任、いずれも不在の場合は、各部の職員が持ち出す。
- (6) 消防署通報(119番)訓練も行う。(火災時)

さいていげん びちくりょう

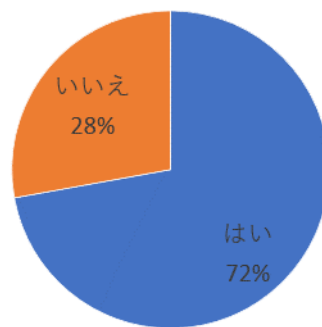
最低限の備蓄量

かぞく にんずうぶん し

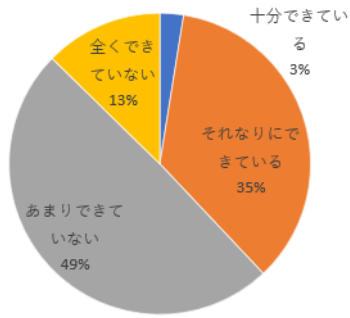
「3日分×家族の人数分」を知っていましたか。

「家庭の備蓄状況に関するアンケート」集計結果

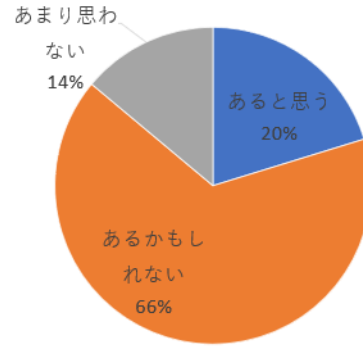
(小学部) (在籍99名 回収率76%)



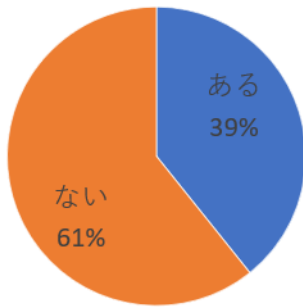
「3日分×家族の人数分」の備蓄が
できていると思いますか。



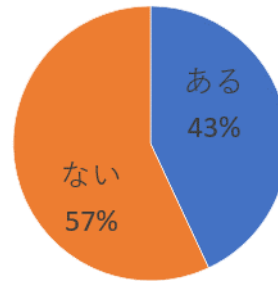
自身の居住地で、近年、
大きな災害が発生する可能性がありますか。



災害対策として、新たに備蓄を追加、
もしくは従来より増やしたものはありますか。



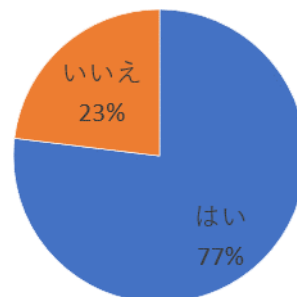
感染症対策のため、新たに備蓄を追加、
もしくは従来より増やしたものはありますか。



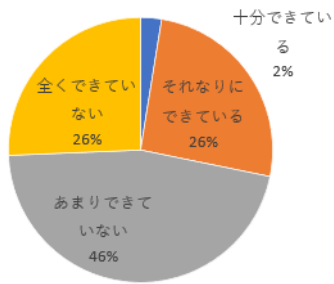
「家庭の備蓄状況に関する
アンケート」集計結果

(中学部) (在籍71名 回収率約51%)

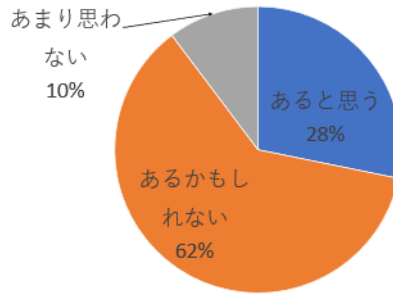
最低限の備蓄量
「3日分×家族の人数分」を知っていましたか。



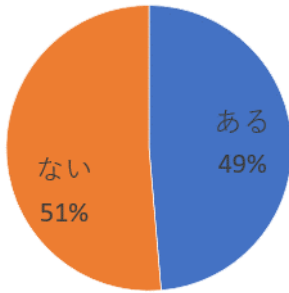
「3日分×家族の人数分」の備蓄が
できていると思いますか。



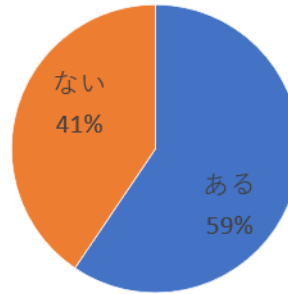
自身の居住地で、近年、
大きな災害が発生する可能性があると思いますか。



災害対策として、新たに備蓄を追加、
もしくは従来より増やしたものはありますか。



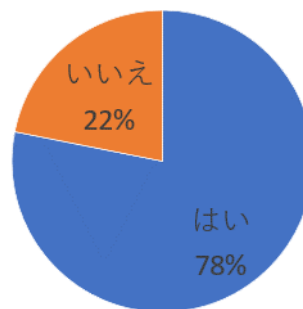
感染症対策のため、新たに備蓄を追加、
もしくは従来より増やしたものはありますか。



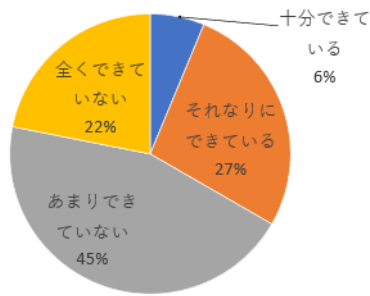
「家庭の備蓄状況に関するアンケート」集計結果

〔高等部〕 (在籍166名 回収率約58%)

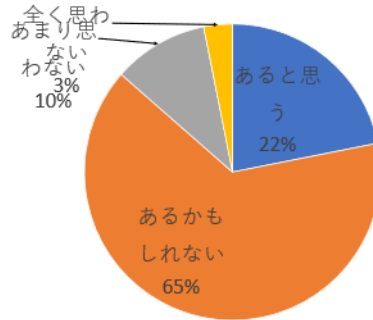
最低限の備蓄量
「3日分×家族の人数分」を知っていましたか。



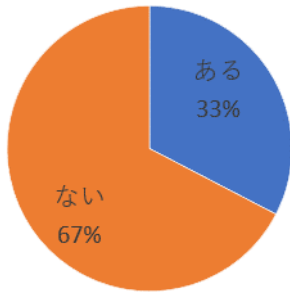
「3日分×家族の人数分」の備蓄が
できていると思いますか。



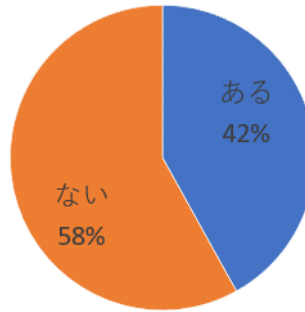
自身の居住地で、近年、
大きな災害が発生する可能性があると思いますか。



災害対策として、新たに備蓄を追加、
もしくは従来より増やしたものはありますか。



感染症対策のため、新たに備蓄を追加、
もしくは従来より増やしたものはありますか。



災害対策として、備蓄を追加・補充したもの



たべものシリーズ



感染症対策のため、備蓄を追加・補充したもの

